

アオキ(青木)

ミズキ科アオキ属の常緑低木

雌雄異株で葉は対生、雌木は冬期に赤い楕円形の実を付ける。雄花は4個の雄しべを付け、雌花は1個の雌しべを付ける。



名前の由来

常緑樹で枝も青いので『アオキ』と呼ばれた。

日本原産で日本全土に自生している。

アオキのエピソード

日本特産のアオキがイギリス人により、ヨーロッパに渡り（1783年ジョン・グレッサー）観葉植物として珍重されたが、雌木ばかりだったので実がなりません。アオキは雌雄異株に気が付いたのが77年後（1860年）の万延元年でした。雄木を求めてイギリス人の園芸家、フォーチュンが雄木を軍艦に乗せて帰り、赤い実が出来たという実話があります

アオキには斑入りの葉が沢山ありますが、西洋で品種改良され日本に逆輸入されたものが有ります。

アオキの葉

アオキの葉は、乾くと真っ黒になります。

奈良の洞川地方に行くと、陀羅尼助がよく売られています。

この陀羅尼助の黒い玉は、アオキの葉が黒くなるのを利用して着色剤として使われ、和漢胃腸薬として飲まれています。

手入れ方法

葉が対生の為、樹形の中が込み合ってきます。

幹や枝を見せ、風通しを良くするために、内に向いている対生の枝を隙取り外向きの1本で仕立てる。

自然樹形を作るため残した外向きの枝先を摘まないようにする。斑入りのアオキは、直射日光に弱く

日焼けします。そんな時は、高木の日陰に植えるか、

アオキはひと枝の寿命が短いので、古木を残して置くと寿命を速めて枯らしてしまうので、根元から勢いよく出るヤゴと順次更新すると良い。



北側の方に移